

# 横浜市立平沼小学校

## 平成31年度 学力向上アクションプラン

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
平沼に生き、平沼で輝く子	問題解決力・コミュニケーション力

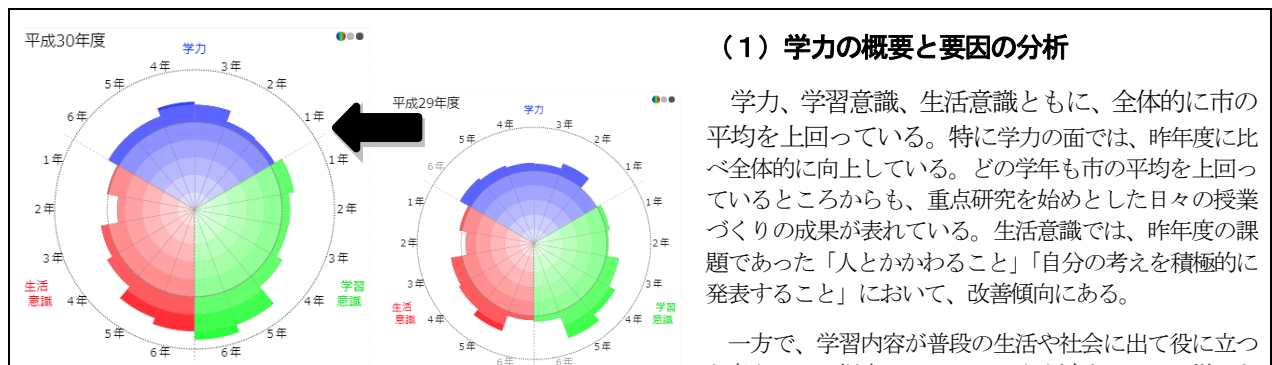
#### (2) 中期取組目標

中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもが期待して登校し、熱中して学び、満足して帰る学校づくりを目指します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが自分のよさを生かして学びを創る授業づくりが推進され、学力・体力の向上が図られています。</li> <li>・ 多様な集団の中で一人一人が大切にされ、安心して楽しい学校生活を過ごせるようにしています。</li> <li>・ 地域・保護者と連携・協働して、社会の要請や期待に応える学校づくりが行われています。</li> </ul> </li> </ul>

#### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	①問題解決力やコミュニケーション力を高めるための、対話的な学びを大切にした授業の追究
担当	②学力・学習状況調査の結果分析の周知とデータに基づく指導の重点化
研究部	③個に応じた指導の充実 (スタディールーム・個別支援学習の充実)
	④朝のドリルタイム・本よみタイムの充実

### 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



#### (1) 学力の概要と要因の分析

学力、学習意識、生活意識ともに、全体的に市の平均を上回っている。特に学力の面では、昨年度に比べ全体的に向上している。どの学年も市の平均を上回っているところからも、重点研究を始めとした日々の授業づくりの成果が表れている。生活意識では、昨年度の課題であった「人とかわること」「自分の考えを積極的に発表すること」において、改善傾向にある。

一方で、学習内容が普段の生活や社会に出て役に立つと考えている児童については、やや減少している様子もみられた。勉強は大切であると考えている児童は多いものの、学習したことを生かすという点においては、今後の課題となった。

#### (2) 教科学習の状況⇒昨年度に引き続き、市平均を上回った。

- 国語科：「めあてに沿って分かりやすく話す」といった他者との対話の面については年々改善傾向にある。しかし、学習が生活に役に立つという意識がやや減少している。国語での学習が他教科の学習や普段の生活に生かされるよう、授業改善を図りたい。
- 算数科：「算数科の勉強が好きだ」と答える児童は年々増加している。一方で学習が役に立つと答える児童が減少傾向にある。学習内容と普段の生活を結びつけて考えることを、授業の中でもより大切にしていきたい。
- 社会科：授業において「みんなが疑問に思ったことを話し合っている」と答える児童が増えた。重点研究を核とした授業改善の成果が見られる。
- 理科：学力・学習意識が高く、年々向上している。観察・実験が好きな児童が多く、自分の考えを図にして表すことを苦手とする児童も昨年度より減少した。

#### (3) 生活状況調査より

昨年度課題であった、「話したり聞いたりして、人とかわることが好きですか」という問いに対して、「好きだ」と答える児童が昨年度よりも増加し、市平均を上回った。重点研究を中心に、「対話的な学び」を大切にした授業改善に取り組んだ成果と言える。一方で、1日の読書時間については、30分以上上回っていると答えた児童数が、市平均を下回っており、本よみタイムをきっかけとして、主体的・日常的に読書に取り組めるような手立てを考えていきたい。

### 3 平成 31 年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1 年	問題を発見する力	○国語科、算数科ともに「わかる授業」を心がけていく。明瞭な発問・指示による授業展開をしていく。	
	現実と比較する力	○一人一人の資質や能力を踏まえ、授業の中で自分の考えを表現する、活躍する場面を意図的に作り出し、児童が自己肯定感をもてるようにしていく。	
2 年	感じたことを言葉にする力	○国語科・算数科ともに、スモールステップを意識しながら基礎基本の定着を図る。国語科では、話す・聞く指導に特に重点を置き、算数科では、計算力を身に付け、算数の楽しさを味わうことができるよう指導法を工夫していく。	
	相手の思いを受け止めて聞く力	○授業の中で、伝え合う場面を重視し、人とかかわる中で自己肯定感を高められるようにする。	
3 年	問題を認識する力	○国語科では、登場人物の行動を中心に、文章を読み取る力を高めていく。国語・算数などで自分の考えを表現する機会を多く設定し、自信をもって発言できる機会が増えるよう、支援していく。	
	観察する力・洞察する力	○社会や理科では、身近な教材から「問い」をもって問題解決をすることを通して、思考力の向上を図る。	
4 年	事実等を正確に理解する力	○どの教科においても、子どもたちが主体的に問題意識をもって学習に取り組み、学んだことへの達成感を味わえることを大切に学習を展開する。	
	伝えあうことで自分の考えを深化させる力	○自分の考えを文章に書いたり人に話したりする場を意図的に設定して、対話的な学びを通して思考力・判断力・表現力の向上を図る。	
5 年	結果を予測する力	○自分の考えを発表したり相手に伝えたりする機会を意識的に設定する。「わかる・できる」場面を大切に、自己肯定感が高まるような指導法の工夫をしていく。	
	考えの妥当性や信頼性を吟味する力	○社会科では、学習内容が普段の生活に大きくかかわっていることが実感できるような授業を展開していく。	
6 年	他者に的確にわかりやすく伝える力	○授業の中で人とかかわる場面を大切にし、それぞれの考えの違いやよさを実感できるような指導法の工夫をしていく。	
	伝えあうことで集団の考えを発展させる力	○どの学習でも、指導計画に沿って計画的に授業を進め、基礎・基本の定着を図ることができるようにする。特に理科については、技能面の学習内容を身に付けられるような指導法の工夫をしていく。	
個別支援学級	各学年で育成したい資質・能力と照らし合わせ、個に応じた資質・能力を育成する。	○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。 ○子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。 ○自己肯定感を高める対応を心がけ、子どもが自信をもって学習に取り組めるようにする。	